

2008 年オオオニバス試乗体験会顛末記

名和田 潔

広島市植物公園では毎年、オオオニバス試乗体験会を実施し、保護者を含め子供たちから大好評を得ている。夏休みのイベントとして定着しており、早朝から行列ができ、大変な騒ぎである。イベントを成功させるため、大きな葉を育てるのが一苦労なのだが、2008 年は今までにない経験をした年になった。

水質浄化剤による生育障害発生

毎年、3～4 月になると熱帯スイレン温室の下池は藻が繁茂を始め、この対策の必要性を感じていた。たまたま農薬庫で藻取り剤グリーンカット（タカラ工業株式会社）を見つけ、ぜひ使ってみようと考えたのである。予備試験として、4 月 30 日に 70ℓ のポリタンクに池の水をとり、その中に規定量の薬（水 1t 当たりグリーンカット 10g）と熱帯スイレン鉢を入れて観察した。4 日目には水が澄み、熱帯スイレンにも害はないようだった。5 月 14 日に同様の方法で再確認した結果、5 日目には水が澄んできた。これでいよいよ藻取り剤使用の決心がついた。ただ、さすがに規定量を入れる勇気はなかったので、5 月 25 日に規定量の 1/10 濃度で始めた。

1 週間が経過したところから、オオオニバスの葉の緑が腐り始め、それをプラチーが食べ始めたのである（写真 1）。（ボウフラ発生防止のため、熱帯魚プラチーを飼育）また、貝による被害も激しく、6 月 9 日には 3 株あったオオオニバスのうち 2 株は 3～4 枚あった葉がすべて食いつくされ、残りの 1 株も葉が 1 枚の状態になった。この時点で、池底の配管が見える程度の透明度であった。貝の種



写真 1. 葉の縁が腐り始めた様子

類はサカマキガイと他 2 種類で、さっそく広島市植物公園栽培記録第 7 号（1986）に報告されている「熱帯スイレンを食害するサカマキガイの防除について」を参考にディプテレックス乳剤を 20,000 倍にして使用することにした。ただ、池全体では農薬も相当な量になるのでオオオニバスを育てている木ワク内に限定し、（容量：175cm × 175cm × 高さ 35cm：水量約 1 t）6 月 10 日の夕方、1 か所当たり 50cc の農薬を投入し、薬害防止のため 16 時間後に囲いのビニールを取り除いて池全体（水量 100t）に農薬を薄める方法をとった。しかし処理後もプラチーが葉を食べるので、ビニールで仕切ったが、水の中での作業なのでプラチーを完全に除去できなかった。本当に効果があるかどうかというよりも、何かやっていないと落ち着かない心理状態だった。とにかく藻取り剤の影響を排除するためには、池の水をすべて入れ替えなければならない。ちょうど年 2 回（6 月、12 月）の池清掃（業務委託）が近づいていたことから、通常 12 月に行う下池清掃を 6 月 20 日に実施し、藻取り剤を完全に排除することができたのである。

新しいオオオニバスの植付け

この時点で、池にあるオオオニバスを諦め、新たな株を導入することにした。6 月 19 日、熱海市の熱川バナナワニ園から 1 株譲り受け、この他に京都の宇治市植物公園、種苗会社のエクゾチックプランツからも導入した。（この時には上池の熱帯スイレンは正常に生育し、下池の熱帯スイレンは傷んでいた。葉の裏にはサカマキガイの卵塊もあり、さらに増殖しそうな状態だった。）

6 月 30 日、下池の水質が急変し、池の水が濁って底が見えない状態になったので、（財）広島県環境保健協会の半田信司氏に水質調査を依頼した。その結果、ケイソウ類が異常繁殖しているとのこと。藻取り剤の薬効で拮抗的な作用をしていた藻が死滅したため異常繁殖したのではないかとということで、透明な上池に生息しているフシナシミドロ（アオミドロの一種）を試しに下池に少し移してみてもどうかとの助言があり、さっそく実行したところ、2 日後の 7 月 3 日、下池の水の透明度が急に改善された。また、熱帯スイレンの異常な葉の進展もなく、植えたオオオニバスもうまく活着した様子であった。

・・・・いよいよイベントまであと 40 日。

ありがたい植物園の協力

熱帯スイレンもオオオニバスも生育は順調。7月6日にはオオオニバスに発酵油粕の追肥ができるまでになり、熱帯スイレンも順調に回復し、花も一部上がってきた。7月14日、オオオニバスは新根が伸び出したのを確認できるようになり、23日には水面に待望の成葉の特徴であるトゲトゲをもつ葉が観察でき、28日には直径60cmになるなど(写真2)順調に育ってきたが、このペースではとてもイベントには間に合いそうにない。



写真2. トゲトゲの葉が展開し始めた様子

他の植物園から葉を譲り受けることに決め、岡山市半田山植物園、宇部市ときわ公園、福岡市動植物園などに協力を求めたが、いずれも運悪く今年は生育が悪く、提供できないとのことであった。そんな状況の中、京都府立植物園に受諾してもらったことは実にありがたいことと感謝している。

トラックで京都までかと不安を抱きながら、具体的な運搬の方法を検討した。水に浮かべて持ち帰らなくては。葉を傷つけないようにしなくては。最低2枚はもらわないと。本当に持って帰れるのだろうか。不安は膨らむばかりであった。まず葉を入れる容器は子供用のビニールプールにした。直径は120cmなので巨大な葉は入らない。立ち上がっている葉縁の裏がトゲトゲなので輸送中にビニールに穴が開くかもしれないということで、ダンボールを切って縁にあてることにした。葉は3枚もらう予定で柵を作り、下に2枚、上に1枚乗せるよう準備した。次の課題は葉を池からビニールプールに入れる方法である。そこで運搬用台を作製した。直管パイプ22mmを組んで台にし、18mm厚発泡スチロールで直径113cmの半円を二つ用意した。それと葉をのせるためのスポンジ(150cm×90cm×5mm)(写真3)。

・・・・・・・・・・イベントまであと3日。



写真3. 葉の下にスポンジを挿入した状態

いざ京都に出発

試乗体験会は8月16日(土)と17日(日)の2日間だが、できるだけ新鮮な状態を確保するために前日の15日(金)に植物園に持って帰ることにし、14日(木)に京都府立植物園に行くことにした。

職員2名がこの任務にあたり、京都府立植物園を訪問した。到着後、松谷園長へ感謝のお礼を述べ、課長、係長、担当者と打ち合わせをしてどの葉をもらうかを決めた。翌朝開園時間までに作業を終えるため、急いでオオオニバスの葉3枚を想定どおりの方法でトラックにのせ、10時15分帰途につくことができた(写真4)。

途中、SAで休憩するたびに、葉が乾かないように覆った新聞紙にジョウロで水をかけ、急ブレーキ、急ハンドルをしないよう用心して運転した。広島市植物公園に着いたのは午後4時50分。さっそく慎重に葉をトラックから降ろし、スイレン温室の池にそっと浮かべた。心配していた葉の傷みは少なく、2枚は充分使用に耐える状態だった。ただ、トラックの下段奥に積んでいた葉はエンジンの放熱の影響で水が温まり、少々傷んでいた。

・・・・・・・・・・イベントまであと15時間。



写真4. トラック内の積み込み状況

試乗体験会当日を迎えて

8月16日（土）、例年通り朝から子供たちの行列ができ、大賑わいの試乗会が始まった。下池手前の木枠には生育途中のオオオニバスが葉を広げている。その後ろに京都直送の大葉を浮かべて、いつものペースで子供たちのわくわく感を満たすことができた（写真5）。結局、一日一枚の葉を大事に使用し、何の問題もなく、このイベントを締めくくることができた。オオオニバスの試乗会を行う植物園はいくつかあるが、広島市植物公園のように一日500人という多くの子供たちのときめき感を満足させている植物園は数少ないだろう。

怪我の功名

今回、オオオニバスの生育障害という最悪の状況を打開する中で、貴重な経験・観察ができた。まず、6月下旬に植え付けたものは8月には間に合わないが、9～11月の間、非常に見栄えのする株に成長させることができ、秋のグリーンフェア期間中にみごとな株を見せることができた。12月になってもまだ元気に開花を続けたが、翌年の1月5日時点で外葉から急激に傷み始め、それを待っていたかのようにプラティーの食害が加速し、展示を終了した。

また、今まで試乗会をする時、3か所の木枠で一番よい状態の株の場所で行っていたが、切り取った葉でも全く問題なく行うことができ、今後は参加者が撮影のしやすい手前の株で試乗を行い、補充用の葉は生育のよい株から切り取って充当すればよいこともわかった。

最後に、二度と必要ないとは思うが、オオオニバス運搬マニュアルができたことだ。具体的には葉を



写真 5. 試乗体験会風景

入れる容器はビニールプールがよく、棘でビニールに穴があかないようにダンボールを25cm程度に細長く切って葉とビニールプールの間に入れるのである。当然プールには水をためておき、その水を吸ってダンボールは柔らかくなり、葉は傷まない。トラック荷台の下部はエンジンの放熱で水温が上がるのでこの場所には置かないこと。池から葉を取り出すのは半円に切った発泡スチロール板。それからビニールプールに入れるのは幅広のスポンジ。これは輸送中のショック防止と水分補給に重宝した。

2009年8月の試乗会は大成功

また、今年もオオオニバス試乗体験会が開催された。昨年の反省をふまえ、特にていねいに栽培した結果、近年にない大きな葉（直径150cm）となり、見ごたえのある状態だった。さらに、今回の体験会は平日も追加して3日間行ったが、いずれの日も大好評で合計1,500人近く子供を喜ばせることができたのである。